

山下埠頭における防災機能を有したリゾート施設の提案  
IR 機能を取り入れた流通機能と観光機能を有した複合施設の設計

Proposal of resort facilities with disaster prevention function at Yamashita Pier

Design of complex facilities with distribution function and tourism function incorporating IR function

○藤山翔己<sup>1</sup>, 小林直明<sup>2</sup>

Shoki Tohyama<sup>1</sup>, Naoaki Kobayashi<sup>2</sup>

The Tokyo Olympics will be held in the future, and it is expected that foreign tourists will visit Japan more than ever before. It will grow further during the event, and it is expected that it will continue to grow after the Olympics.

In recent years, it started with the Great East Japan Earthquake, followed by major natural disasters such as the Kumamoto Earthquake and heavy rains in West Japan, and the Tonankai Trough is now considered a danger. A disaster prevention base is necessary for foreigners visiting Japan to enjoy sightseeing in Japan with peace of mind, and the future architecture should function as a host for disasters outside the planned area. Think of it as a figure.

In this proposal, we plan a new resort facility to accept foreign visitors to Japan, which is expected to increase in the future, and to protect people from natural disasters, and rebuild Japanese accommodation facilities and disaster prevention facilities.

1. はじめに

今後、東京オリンピックも開催され、外国人観光客がこれまで以上に来日することが予想されている。昨年までの年別訪日外国人数の推移(Fig1)を見てもわかるように右肩上がりです。2020年の東京オリンピックの際にはさらに伸びて行くことだろう。そしてオリンピック後も右肩上がりです。伸びていくことが予想される。

近年、東日本大震災から始まり、熊本地震や西日本豪雨など大きな自然災害が続き、現在は東南海トラフが危険視されている。我々日本人も含め、これからさらに増える訪日外国人の受け皿となる防災拠点が必要となる。訪日外国人が安心して日本観光を楽しむためにも防災拠点が必要である。また、計画地域以外で災害があった際の受け入れ先としても機能することがこれからの建築のあるべき姿であると考えます。

本提案では、今後も増加が見込まれる訪日外国人を受け入れるための受け皿として、また自然災害から人々を守る新たなリゾート施設を計画し、日本の宿泊施設と防災施設を再構築する。

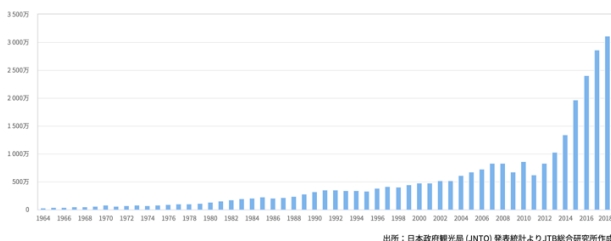


Figure1. Changes in the number of foreign visitors to Japan by year

2. 計画背景

2.1 宿泊施設の不足

日本政府観光局が発表している2017年の訪日外客数を見ると、1月から6月の上半期の推定値で約1,400万人弱となっており、前年比+17.4%で推移している。こうした状況を受けてホテルの客室数不足、宿泊費の高騰が叫ばれており、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、東京や大阪などの都市部を中心に、およそ4.4万室が不足するとも言われており、客室不足が深刻化すると問題視されている。(Fig2)

	追加必要客室数 (a)	ホテルオープン計画(客室数) (b)	過不足 (b-a)
北海道	0	1548	1,548
東北	0	1360	1,360
関東	2,418	4519	2,101
東京	13,843	9549	▲ 4,294
甲信越北陸	18	1206	1,188
東海中部	40	2779	2,739
近畿	23,476	3765	▲ 19,711
中国	290	1072	782
四国	0	862	862
九州	860	1008	148
沖縄	374	3393	3,019
全国計	41,319	31,061	▲ 10,258

Figure2. Number of hotels

2.2 カジノの導入

訪日外国人をさらに誘致するためにIRに注目する。近年、日本でもカジノの導入に対する意見が前向きに検討されている中でIRは多くの観光客を誘致する大きなきっかけにつながる。IRを通して、国際観光推進に役立たせたいとの動きが出ている。そこで本計画にもIRを取り入れ、国際観光の促進を図る。

1 : 日大理工・院(前)・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

2 : 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture and Engineering, College of Science and Technology, Nihon University.

### 3. 基本方針

増え続ける訪日外国人を受け入れるための受け皿が今の日本には必要になる。そこで日本文化を体験できる IR 施設を提案する。(1)日本観光の拠点となる(2)日本文化を味わう(3)四季を感じる(4)国際観光の促進を図る(5)災害支援ができる(6)海からのアクセスを可能にする提案とする。

#### 3.1 敷地選定条件

計画背景より以下のように敷地選定条件を設ける。

- (1)東京までのアクセスが良い場所
- (2)宿泊施設と観光施設が複合できる広大な敷地
- (3)災害時に支援できる水辺空間
- (4)訪日外国人がアクセスしやすい場所

#### 3.2 神奈川県横浜市山下埠頭

現在実際に IR 誘致および計画提案が行なわれている神奈川県横浜市山下埠頭に計画敷地を選定する。ここで問題となっているカジノの地域住民に与える悪影響の懸念と物流拠点として栄えてきた歴史の喪失である。それらを配慮し、さらに災害にも対応できる IR 複合施設提案である。

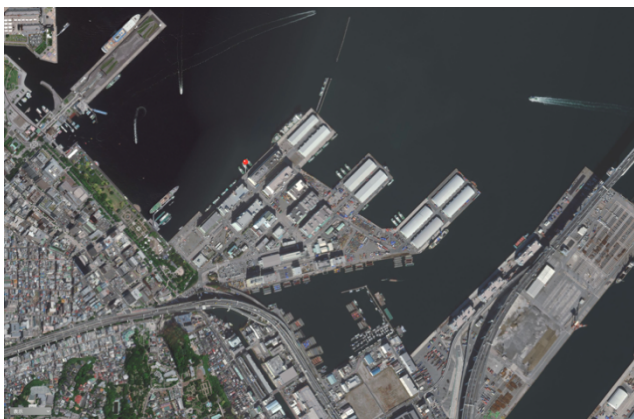


Figure3. Yamashita Pier, Yokohama City, Kanagawa Prefecture

### 4. 基本計画

基本方針をもとに計画し、以下にまとめる。

#### (1) 宿泊機能

訪日外国人と日本内からの観光客の宿泊場所を提供する。利用者のニーズに合わせてリゾート型、旅館型など様々なタイプの部屋を設け対応する。

#### (2) 日本文化を体験できる機能

日本を代表する文化である和食や銭湯、舞妓、歌舞伎、浴衣などの体験ができる施設を盛り込む。見るだけでなく実際に体験することで、より日本文化を身近に感じることができる。

#### (3) 四季を体験できる機能

日本を代表する気候である四季をより感じるために自然を多く盛り込んだ空間とする。

何回でも来てもらえるようにその季節に合わせて空間の雰囲気を変えるように計画し、なんども来たくなる施設とすることで観光計画としても収益の面でプラスにつなげる。

#### (4) IR 機能

日本でも着々と実用化に進んでいるカジノをはじめ、会議場などの MICE 施設を盛り込み国際観光の促進を図る。日本文化に馴染みのある日本人でも楽しめるためにカジノにも力を入れることで日本人にも利用するきっかけを提供する。

#### (5) 防災機能

どのような災害が起きた際でも一時避難場所として、大きな津波などが来た際は少しでも時間を作れるような場所として機能させる。また、計画地域以外で災害があった際の受け入れ先として、災害支援できる機能とする。

#### (6) マリーナ機能

羽田空港から船でのアクセスを考慮したマリーナ施設を整備する。また、船で東京を観光できる計画も行う。

#### (7) 流通機能

物流拠点として栄えてきた本計画敷地の歴史性を残しながら緊急時の防災機能も兼ね備えたものとする。

### 5. 建築計画

建築デザインについては訪日外国人が多く訪れる建築空間の特徴を部分的に抽出し、本提案に少しずつ取り入れながら計画を行う。例えば伏見稲荷大社は連続する鳥居。巖島神社では水の満ち引きによる変化。新宿御苑は自然と調和した空間などそれぞれの建築空間との関わりがある。それらを抽出し建築空間へ部分的に盛り込む。少しずつ要素を盛り込み、気に入った空間があれば次に日本に来てもらい、地方に足を伸ばしてもらおうきっかけの提供にもつながる。そうすることで地方の活性化にもつなげていく。

### 6. 参考文献

- [1] 総合研究所「インバウンド観光と宿泊施設不足」
- [2] 日本政府観光局「インバウンド 訪日外国人動向」
- [3] Google Earth
- [4] 国土交通省観光庁「MICE 国際競争力強化委員会 最終取りまとめ報告書」